
土と火の戦士

フェニックス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

土と火の戦士

【Nコード】

N0090Z

【作者名】

フェニックス

【あらすじ】

ウエストホース。ならず者の住みか。その大陸に保安所があった。保安官レオ・バレッタは幾多の試練を乗り越え、極悪人、シヨットガンナーにたどり着いた。

土と火の戦士

レオ・バレッタはチャंकと同化し、アーマードバレッタとなりマリアが覚醒させたショットガンを背負い、飛び立っていた。

「あれは。アインシャーク三世。聖騎士ロキ。彼等も来ていたか？チャंक。合流しよう」「オーイ！待ってくれ！アインシャーク」

「フン。ゴッドインパルス。彼も来たぞ。あの姿で。アーマードバレッタ」「土の神ライダーの後継者、バレッタ。さすがだ。精神が充実している。初めて会った時と違うな」「オオ。あの気迫、気高さ。彼も覚醒したか。遅れを取るな！ロキ」「ゴッドインパルス。人は絶望の沼に浸かる時がある。それが仲間の死だったり、守るべき絆だったりする。沼は底なしだ。だが、そこから這い上がって来た蝶は美しい。なぜかわかるか？それが生命の可能性だからだ」「可能性か？強く舞うのも底で溺れるのも可能性か？」「その通りだ」

ロキとゴッドインパルスはレオと合流した。

「アインシャーク。いや、ロキ。遅くなったな。もう大丈夫だ。俺とチャंक。それにマリアとミサトの魂を引き受けた者、アーマー

ドバレッタ。これより貴公等に加勢する。遅くなったな。もう大丈夫だ」「なるほど。絆か？お前を再び舞い上がらせた原動力は」「そうだ。そいつは？」「紹介しよう。火の神の遣いアドニス。それが死を越える存在、死超星の宝珠と出逢い覚醒した。彼はゴッドインパルス。神の衝撃。正義の刃」「ゴッドインパルスか。良い名だ。行こう。奴を倒しに。ショットガンナーを倒しに」

三人は盗賊団のアジトへ向かった。保安所のボスはその光景を見ていた。「見ているか？マリア、ミサト。彼等が奴の元へ向かった。レオはすっかり遅しく産まれ変わった。君達のお陰かな？」ボスは暑い陽射しを見上げながら煙草に火をつけた。

「出てこい！ショットガンナー！俺は戻ってきたぞ！お前と決着を着ける為に！」「ホウ。負け犬が！随分な威勢だな。返してもらうぞ。俺の武器、ショットガン！三年前の屈辱を付けて！」「ショットガンナー！お前は黄泉の掟を破った。地獄すら温いわ！お前の行く先は、無限の闇。闇の森でさ迷うが良い」「ゴッドインパルスが二刀流を構えた。「邪魔するぞ。ショットガンナー。レオ。気のすむまでやれ！俺達は目撃者になるう」ロキがゴッドインパルスの前に立ち、レオの道を開けた。「レオ・バレッタ。復活の祝いだ。受け取れ」「ゴッドインパルスは二刀流で結界を作り、ショットガンナーの魔力を中和した。「コッ……………これは？なんとゆう事だ！我輩の力が中和されていく。貴様は？」「死超星の力。知っているだろっ？お前の通った道だ。お前は三年前死んだ。レオ・バレッタの

力に敗れた。その時、霸王、仁王と出会ったな。彼等にもらい受けた。彼等からの警告を伝える。ショットガンナー。お前はここで終われ。以上だ。さあ始めようか？」

ショットガンナーの兄、トップガンナーはその光景を見ていた。

「あの器も限界か。棄てよう。奴の敗けだ。改造人間ROUSE隊の隊長か。脆き器よのう。人智を越えた存在とは人体実験の結果では無いのか？」

続く

土と火の戦士 その2

レオ・バレッタは再びショットガンナーの前に立ちふさがった。

その頃、上層部も出撃の仕度をしていた。

「良いか。今回の任務はショットガンナーの始末。そして改造人間の始末だ。その為なら手段を選ばない。必ず始末するのだ。生かしておけばいずれ我々の障害になる。ここで始末するのだ」「元老院様。もし今回の任務で失敗したら……………」「その時はこの兵器がある。良い実験になるのだよ」「左様ですか？ですがあの兵器はまだ研究段階です。まさか大陸の生態系を変える生態兵器など……………」「……………最終的な判断はワシがする。まずはどこまで押さえられるかだ。判断はそれからでも遅くはない」

「レオ。1つわからない事がある。教えてはくれないか？なぜ人間はもろい？」「もろい？いや、違うな！お前は知らないだろうが弱き者だからこそ可能性があるのだ。可能性があるから寄せ集まるのだ！それがわからんお前は既に終わっている。三途の川の渡し賃程度に教えてやるさ」「ホウ。可能性な。面白い。人の可能性など雨水にも足らん事を教えてやろうではないか？」

ショットガンナーの気迫が上がる。森がざわめき鳥は飛び立つ。その合間を縫ってレオは飛び上がる。鳥を踏み台にし、高く舞い上がった。

ガツシユツと音を立て、レオの両肩のバズーカーがターゲットを狙う。

「ウン。安定している。その調子だ。レオ」レオと融合したチャンクが彼の精神で語りかける。「チャンク！火を放て！」「ヨッシャー！イッタレー！」

ズバーン！

大陸を揺らす様な衝撃が走る。

「なんて衝撃だ！アドニス。大丈夫か？」「アア。なんとかな。殺ったか？」「いや、爆風でわからない」

ショットガンナーは銃弾を手のひらで止めていた。そのままクルツと飛び乗り銃弾をかけ上がる。空中でレオを追いかける二人はクロス

する。

「さすがだな。我輩が認めた男はそうでなくてはな。今の攻撃でわかったさ」「死を飲み込んだ男の力だ！お前にはわからんだろう」「ホウ。死線を越えた力か？なら我輩も見せなくてはいかな。シヨットガンナー！オーバーデッドモード！」

鈍く緑に輝くシヨットガンナーは既に人の姿ではなく獣の姿だった。腕に二本の爪を持ち、狼の様な顔立ち。筋肉は躍動し、トゲの様な鱗を背負った男。

「ガウルルウツ！これが俺の姿だ！見せたのはお前が初めてだがな。正直恐いよ。初めての实战でね。さあ、始めようか。盟友よ」「ちようど良い。そうでなくてはな。人間のお前とは既に決しているのだ。三年前のマリアが死んだあの日」

二人は宙を飛びながら会話した。

「元老院様！空をご覧ください」「なんだ？あの野獣は？それにあの男。何者なんだ？」「奴はレオ・バレッタ。この大陸の保安官です」「……………と言う事は、一緒にいる奴が……………」「おそらく……………シヨットガンナー。常人に出来る業ではありません」

「レオ。少し腕試しがしたい。良い実験体がいる。待っている。邪魔者を蹴散らしに行く」「止める！ショットガンナー！これ以上被害者を出すな！」ショットガンナーはレオの話を聴かず上層部に襲いかかる。

グオラアウ！

大きく泣き叫び腕を伸ばす。彼の腕に触れた兵士が次々に倒れていく。腕を元に戻し、倒れた兵士の血を舐める。「ヒッ……………ヒ……………打て！ウテーイ！」ズガガガガッ。兵士たちは拳銃を構える体にめり込んだ銃弾を弾き返すショットガンナー。再び倒れていく兵士。「ヒッ……………ヒ……………引け！ヒケーイ！全軍後退！」

ガウルルウッ！

超人的な跳躍力で跳ね上がり、爪で貫くショットガンナー。

「ザット200。そんなもんか？弱き者よ。立ち去るが良い。今な

ら伝えられる。我輩の力を！」

「なんという惨劇。一瞬で上層部を蹴散らしやがった。奴は進化している。三年前より」「レオ！しっかりしろ！お前には絆がある！仲間達の。散っていった戦友の！」

「ウオーミングアップは充分だ。さあ、行こうか？レオ君。俺達の次元へ」

「元老院様！ご報告致します」「しなくて良い！クッ……………完敗だ。我々が甘かった。奴は既に人間を越えている。後は……………この大陸ごと爆破するだけだ。任務失敗」「元老院様。ご決断を」「サテライトの使用を許可する。生態系を完全消滅させる生物兵器サテライト。今すぐ発射準備を」「ですが元老院様。あれは開発途中で……………」「良いんだ！責任は私が取る！ここで食い止めるのだ！」「……………かしこまりました」

続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0090z/>

土と火の戦士

2011年12月1日22時47分発行